



今月は、剣道の心を一身に「生涯剣道」とし生きる堀部弘さんをご紹介します。

堀部弘氏

堀部 弘氏(今町)
95歳

80年を超える剣道歴
探究心今も変わらず努力の日々

現在、阿蘇市剣道連盟会長である堀部弘さんは、大正元年9月18日生まれ。先月95歳を迎えられました。

幼い頃から剣道に親しみ、教員としての38年間で、たくさん生徒たちに放課後剣道を指導されてきました。

特に役犬原校区に昭和46年開設した「霜林練成館」では



当時、役犬原小学校校長として館の設立、指導に尽力。その後剣道は地域で根付き社会教育に大きく影響しました。教員退職後は、宮地の「報徳道場」で週3回の練習に通い、その道場へ向かう姿は、退職後35年間も変わらず、まさに「生涯剣道」。

「礼儀は人を敬い弱者を大切に。礼儀は思いやりの心を育て物を大切に。する心にもつながる。」

この言葉は、平成17年全日本剣道連盟による永年の功績を称えた「有功賞」受賞の席で堀部さんが述べられた言葉で、剣道など武道教育で最も大切なことは礼の心であることを伝えられました。現在も「自身、剣の道は自分に勝つことと、毎日心身の鍛錬につとめ、その姿に同じ道場で一緒に剣を交える仲間の方々も『真の剣士』を見る」と言われます。

その姿とは、道場での練習ほか、自宅でもジョギングや素振りを実践されていること。また、昨年、妻を亡くし、お一人になられた生活の中でも、



家事のみならず、庭の草花を育て、絵画や習字にいそしんでおられることです。

報徳道場で一緒に練習をしている中川孝志さんは「先生の剣道に対する探究心や、与えられた命をひたすらに生きる生き方に命の本質を見る」と語り、明日もまた、そしていつまでも堀部さんと剣を交えることをメンバーの皆さんとともに楽しみしておられます。



絵画においては、昭和23年ごろから、内牧1区に居住していた坂本善三画伯の指導をうけ毎晩のように画伯の元で絵を描き、昭和25年に独立美術協会展で入選をされています。

坂本善三画伯は堀部さんより2歳上と年も近く、ご自宅には直筆の手紙等が残されています。



報徳道場/昭和9年に建設。県内で最も古い武道場です。